

## 神楽ヶ峰BC報告書

(山域) 新潟県神楽ヶ峰

(日時) 2016年3月5日

(天候) 快晴

(参加者) CL: 菊池・SL臼井・井上(里)・狩野(記録)

(行程: ルート図参照) かぐらスキー場第五ロマ降り口(1830m)ー神楽ヶ峰(2029m)ー田代スキー場トップ(1570m)ー和田小屋(休憩)ー第五ロマ降り口ー中尾根トップ(1984m)ー中尾根ー中尾根下部ー沢地形ーゴンドラ終点(1380m) 累計: 登り 350m、滑走 1050m



### (山行報告)

3月5日3:00起床、最近の山行は前夜発がほとんどで久しぶりに早起きをしての山行。初めてのBC、場所はスノボーで慣れ親しんでいる「かぐらスキー場」なので気分は楽だったが、今回はスキー場から出るため、ちょっとワクワクしていた。メンバーをピックアップして穴川ICを4時ころ通過し、首都高から関越道に向かい8時過ぎに月夜野のICをでた。CLがSさんの常宿で、かぐらスキー場の割引リフト券を購入し、スキー場駐車場へ到着。駐車場もそこそこ混んでおり、ゴンドラ乗り場は行列ができていた。自分はいつも平日にこのスキー場に来ているので、こんなに混んでいるかぐらスキー場は何十年ぶりのように思えた。ゴンドラとリフトを乗継ぎ、いよいよスキー場の外へ出ようとした時、CLから「そっちから入ったらだめ！」と言われ、よく見たらゲートが有り係員の人がチェ

ックしていた。ゲートでは計画書とビーコンの結構嚴重なチェックをしていた。数年前ここでポーターのBCが遭難したのを思い出し、ちょっと緊張気味にゲートを通過した。



スノーボードを背負って歩くのは初めてで、「なんかボードが足に当たるな？」と思って他の人を見たら、みんなボードを上の方にして背負っていた。「ん～やっぱりやってみないと分からないね～」と思いながら初めてのBCへ出発した。他のメンバーは全員スキーなので自分だけスノーシューを履いての歩きだった。汗だくになったが思ったより違和感もなく山頂付近へ到着。途中CLから雪庇の下を通過するとき雪崩になる可能性の話とか、時期や方向によって雪質が変化する等、今までの雪山山行とは違った面でも勉強になった。



コースはスキー場のゲレンデとは違い全面自然のまま、トレースはあるものの圧雪してない雪上を滑るのは格別に気分が良い！1本目は比較的緩斜面で広くのんびり滑っていたが、ちょっと





油断すると何でもないところで転んでしまう、斜面の向きや気温で雪質が微妙に違って普通に滑っていると板が刺さってしまう、慎重にゆっくり滑っていればなんでもない場所でも、ちょっと気持ちよくなってスピードをだすとバランスを崩してしまう。いろいろ試しながら滑っていたらあっという間にゲレンデまで下りてしまった。昼食をとり2本目。食事はゲレンデのレストランでと思ったら、超混みこみ！しかたなく外で行動食を食べたが、今日は天気も良く気温も高いので、混んだレストランより表でのんびりした方が気持ち良く過ごせた。



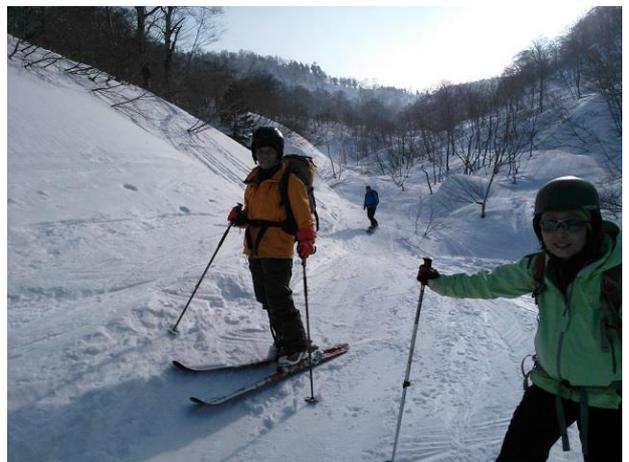
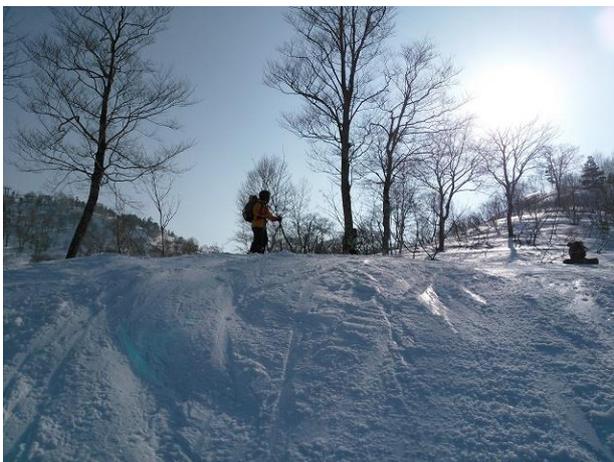
2本目はかなりロングコースだが、登りは1本目と同じくらいだった。途中遠くに見える尾根少し下の急斜面を横切っている人がいた。雪崩のリスクとか考えないのかな？と思いつつ、自分は登るのに一杯いっぱい、またまた汗だくになってしまった。最後の滑り出しまでの場所は平行移動するため自分だけスノーシューで木の間をすり抜け歩いたが、これも結構おもしろくスノーハイキングみたいに楽しめた。



滑り出しは広い斜面で遠くまで見渡せたが、少しずつ木が多くなってくると、先頭のCLの姿が見えなくなり「こっち、こっち！」と声のする方を見たら、少し後ろからCLが出てきて「こっちの急斜面を見せたかった。」みたいな感じで、さっき登って来る時に見た尾根の下を横切っていた人がいた斜面なのかな？とか思いつつ、そちらを見るのはあきらめて樹林帯の中に入って行った。



木の間を滑るのは危険もあるので横滑りをしながら徐々に高度を下げていく。少し急斜面もあったがゆっくり滑っていればソリでも行けそうかな？って感じだった。途中ストックを出して滑ったら、スノーボードでも平行移動が楽々で、ゲレンデに出てもストックを使って滑り、昔スキーで滑っていた時を思いだし、またスキーもいかなかった。帰りはスキー場の近くの温泉でゆっくりしてから家路についた。



今回は初めてのBCだったが想像していた通りの楽しい滑りができた。BCは雪山登山をして下山は滑り降りてくるのでいろいろな楽しみ方ができます。スノーボードの人も大丈夫です、スキーの技術が上級者じゃないとできないと思っている人は一度試してみてください。ボーゲンができれば誰でもできます。是非一緒に行きましょう！

(井上さんの感想分)

今回、シーズン山スキー三回目の初心者にもそれほど難しく無いという神楽スキー場に行くチャンスに恵まれました。

前回の藤巻尾根の深雪パウダーには本当に苦しみ挫折しかけた私が再起をかけた(ちょっと大袈裟ですね。)山スキーです。

今までになかった暖かい晴れ日でこれから登る山頂がはるか上の方にはっきりと見え、今度こそはという期待と不安がいっぱいで落ち着きません。長いゴンドラやリフトを乗り継ぎながらゲレ

ンデコースを二本滑りリーダーに滑りの確認をしてもらい、いよいよビーコンのチェックゲートを緊張しながら通過しました。

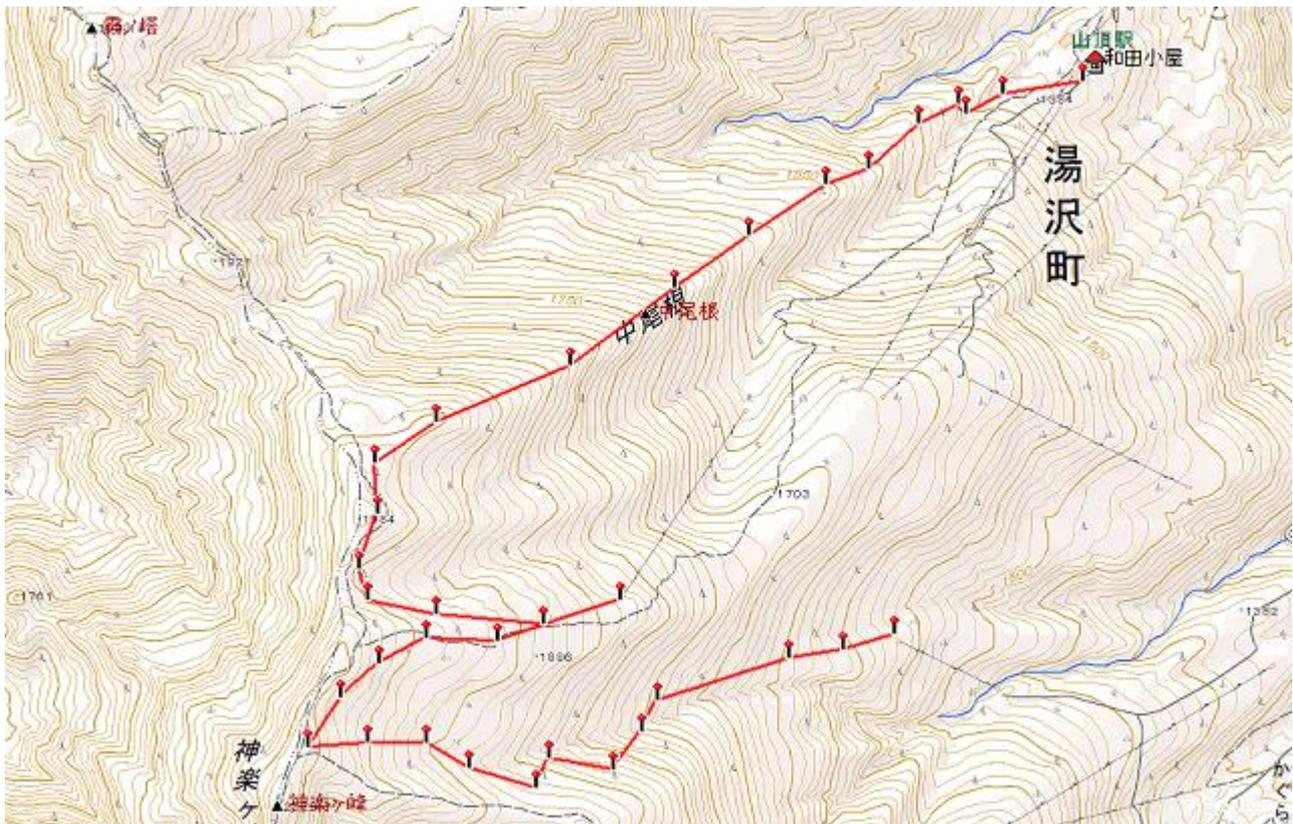
風も無く暑い日差しの中かのシール登高は雪面が輝き、素晴らしいの一言ですが、やはり「私の下りははたしてどんなことになるのだろうか・・・」という不安で頭の中はいっぱいです。

最高の山頂の眺めを楽しむ余裕も私はなく手早くシールを着け行動食を口に押し込みリーダーの話や滑りに集中します。気持ち良さそうな広い斜面が続きますが少し重い雪は深くはないのに私は苦戦します。転びたくない。木にぶつからないように・・・などと考え過ぎ腰が引け、思うように板の操作ができていないのが自分でもよく分かりました。そしてボーゲンを使い過ぎ、足がぱんぱんになり余計に板の操作ができないという悪循環にはまってしまった。

もう一度シールで登り右手の尾根を滑る。二番手の私が振り返るとボードでバックカントリー初挑戦のKさんがニコニコ顔で楽しんでいる。山スキーはまだスリーシーズン目という若いUさんは美しい滑りで気持ち良さそうだ。私もあんな滑りがしてみたい。

谷側に下りてくると灌木や急斜面があり私にはどうにもならず横滑りやキックターンを使ってどうにか下りる。リーダーは常に声かけゆっくり待ちながら下りてくれるが足が疲れ必死な私には何もできず申し訳なかった。

どうにかゲレンデまで下りると滑りやすく何の心配もない。しかし自分の足で登る充実感や誰も滑っていない雪面の気持ち良さは本当に素晴らしく、どんなに苦労しようが山スキーは続けたいと思いつつ無事、帰業しました。



(CL 記)

いつものように、ビールを飲みながらの夕食後はすぐに眠くなりソファでごろ寝、2~3時間ほどして、ベッドに移動して眠って起きると2~3時台、NHKの深夜便を聞きながら、モーニングならぬ深夜コーヒーをすすりながらメールをチェックしてみると、ぬっぬっ！！ 3:15に井上(里)さんから感想文が送られてきた。これから寝るとのこと、「おやすみなさい」とメールに記されていた。全く小生と生活リズムが違う皆さんが、深夜・未明発のBCにご一緒してくれます。なんと幸せな、

団塊世代でしょう。BCをやりたい熱意のある方々には頑張ってノウハウを伝授したいと思います。

狩野さんの報告と井上さんの感想文に加筆、写真を挿入し山行報告を仕上げるのはいつもこの時間です。7時を待ってMLに投稿するわけです。今日は6時過ぎに出勤のため、今夜投稿します。